



芸術は人間を結び 世界を結ぶ

イタリア中部・トスカーナに広がる赤い屋根の街。ここは「花の都」フィレンツェである。1981年6月、池田名誉会長は同市の「ミケランジェロ広場」にいた。

メディチ家の庇護のもと、ここでルネサンスが花開いた。街その

ものが美術館。ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ボッティチェリ——腕を競った天才たちの息づかいが、今も聞こえるかのようだ。

名誉会長が掲げる、仏法を基調とした人間主義。その旗の一つが「文化主義」である。民主音楽協

会、東京富士美術館を創設し、芸術を万人に開き、芸術の力で世界の人と人、心と心を結んできた。

芸術は、平和の花。芸術によって、人は蛮性に打ち勝ち、生命の尊厳を体得する。

あすは「文化の日」である。

からだに栄養が必要のように、
心には文化の滋養が不可欠だ。
芸術を愛することは、
虚栄で自分を飾るためでもなければ
道楽や暇つぶしでもない。
人間が人間として
人間らしく生きていくために
絶対になくてはならない魂。

それが文化だ。
人間は、
優れた芸術によって、
「人類」と「自然」と「宇宙」が
一体であることを
感じられるようになる。
人類が築き上げ、創出してきた、



東京富士美術館を訪れ、ロシア絵
画の至宝「第九の怒濤」（アイヴ
ァゾフスキー作）を鑑賞する池田
名嵩会長夫妻（2003年10月）

地球上のあらゆる芸術。
それは、
その時代、その民族や個人を
「表現の場」としながら、
それぞれの民族や個人が
宇宙生命と出会い、
触発され、うたいあげた
「魂の歌」「生命の軌跡」の
結晶ではないだろうか。

芸術は、
人間を結び、世界を結ぶ。
美しい花に国境はないように、
芸術にも国境はない。
あらゆる障壁を超え、
異なる文化の豊かさや美に
目を開かせながら、
地球大の友情を広げる。

芸術とは、
「瞬間」を「永遠」に高める
力のことであろう。
この日、この時、
この一瞬にしかない価値を、
永遠の美へと昇華する
魂の作業といつてよい。
その意味では、
一度の出会いを、
永遠の絆へと高めゆく
友情の建設も、
人間性の価値創造の
「芸術」ではあるまいか。